

市民の命と健康を守るために、地域特性を踏まえた持続可能な  
病院を整備するための病床配分を求める意見書

上記の議案を提出する。

令和7年12月17日

提 出 者

18番 与 座 武

4 番 深 田 貴美子

6 番 宮 代 一 利

9 番 小 林 まさよし

11番 落 合 勝 利

13番 さ こう も み

20番 三 島 杉 子

23番 下 田 ひろき

25番 川 名 ゆうじ

武蔵野市議会議長 木崎 剛 殿

市民の命と健康を守るために、地域特性を踏まえた持続可能な  
病院を整備するための病床配分を求める意見書

武蔵野市では、長きにわたって、高度急性期、急性期、回復期、慢性期と、市内病院がそれぞれの役割を担いながら、地域医療を支えていただいております。

しかし、吉祥寺地域においては、平成27年9月に松井外科病院が病床を廃止して以降、この10年間で二次救急医療機関や災害拠点連携病院、災害医療支援病院等の役割を担ってきた病院が、次々と病床廃止や診療休止に至り、救急医療や災害時対応が可能な病院が不在の状況となっています。

特に、令和6年4月に森本病院が診療所へ移行し、さらに同年10月には吉祥寺南病院が診療休止となり、この1年のうちに突如二次救急医療機関と災害拠点連携病院等の機能を担う2つの病院がなくなったことに、市民は大きな不安を抱いております。

このような状況において、本年3月に吉祥寺南病院の事業継承先が社会医療法人社団東京巨樹の会に決まったことは、大変喜ばしいことであると感じております。また、東京都におかれましても、事業継承に関する認可手続を進めていただいたことに大変感謝しております。

しかし、昨今、診療報酬が物価上昇に見合っていないこと等の課題や建築資材の高騰、人件費の上昇等の影響により、老朽化した施設の建替え等を行いつつ、病院を経営することの困難さは全国的にも課題となっております。地域に根ざし、長く市民の命と健康を支える持続可能な病院を経営していくためには、病院として一定の規模が必要になると考えます。

現在、国は新たな地域医療構想の検討を進めており、全国的には病床を削減する傾向にあることは認識しております。東京都におかれましては、国への提案要求において必要病床数や基準病床数について、病床数が過剰にならないように、地域の医療動向に合った病床数となるよう算出方法の見直しを要求するとともに、本年9月18日に開催された地域医療構想調整会議（北多摩南部・臨時会）にて、同様の主旨について国に対してしっかりと東京都の考え方を伝えていくと発言されております。武蔵野市は、東京都内でも比較的狭い面積で人口密度も高い地域であり、その中でも吉祥寺地域は住宅が密集して人口密度が高く、高齢化率も高いといった地域特性があります。

医療行政は広域で行っていくものということは重々承知しておりますが、こうした地域特性を踏まえたうえでの議論、検討は必要であると考えます。

武蔵野市議会は、市民の命と健康を守るため、社会医療法人社団東京巨樹の会と武蔵野市が協力して、災害時対応等も踏まえた安定的かつ安全・安心

な医療体制の整備を進めていることを全力で後押しするとともに、東京都指定二次救急医療機関及び災害拠点連携病院の機能を有し、持続可能な病院が吉祥寺地域に整備されることを強く望んでおります。

以上のことから、武蔵野市議会は、東京都に対し、市民の命と健康を守るための持続可能な病院の整備に向け、武蔵野市の実情や地域特性を踏まえた病床配分を行うことを要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和7年12月 日

武蔵野市議会議長 木崎 剛

東京都知事 宛て